

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		伊東もえぎ				公表日	令和6年10月22日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	手狭に感じる場面も多くある。庭や小部屋等を活用し工夫している。	靴を脱い上げられるスペースや宿題に集中して取り組めるスペースなどを作る。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	法人内の施設から、ヘルプ職員に来てもらい工夫している。	求人活動の強化をすると同時に職員の働きやすい環境を整える必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		棚などを設置して工夫している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動スペースは衛生的に保てる様になっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		職員室兼療養スペース、物置兼クールダウンスペースにするなど狭い室内で工夫して設けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	職員評価制度を取り入れ、職員が積極的に業務改善に向け行動できる機会を増やしている。	PDCAサイクル等を取り入れ目標設定とフィードバックができる環境を整える必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表以外にもラインなどを活用し、ご家族へご意見を頂戴し改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な職員面談を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在第三者評価の制度は設けていない。	第三者評価の検討が必要。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人研修や施設研修、職員会議では簡単な勉強会なども行っている。		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		前月中旬には翌月の活動予定配布しており、Instagramの発信では、経過の報告になるよう心掛けている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		9月末まで児発管不在であったが、10月より児発管が配置された為より良いサービスを提供できる。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員各々の見解や思いが集約する為のミーティングを日々行い、共通理解の元で支援が行われる様にしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	アセスメントツールを使用。一括管理ソフトの導入をしている。	一括管理ソフト導入済み。今後は正しく運用していく必要がある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○	朝礼で当日来所になるご家庭の支援計画の内容等と合わせ支援内容の確認をしている。	共有方法に見直しをし、職員一人一人が相違なく支援内容を周知できる環境を整える必要がある	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムごと担当者を決め内容の精査、実施、検証をしながら行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われている か。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を 行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改 善につなげているか。		○	朝礼で当日来所になるご家庭の支援計画の 内容等と合わせ支援内容の確認をしてい る。	一括管理ソフト導入済み。今後は正しく運 用していく必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見 直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		○	おおむね3か月毎にモニタリングを行い必 要に応じて計画の見直しを行っている。	一括管理ソフト導入済み。今後は正しく運 用していく必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複 数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自 己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会 議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下 校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発 達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		他施設の事例などを参考に、今後機会が あった場合は精神誠意努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事 業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供す る等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じて スーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活 動する機会があるか。		○	公園等の公共施設を利用しながら、自然な 形で関わりを持てる様工夫している。	さらに積極的に関わられるような企画を実施 する必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		まずは職員体制を整え、積極的に参加でき る環境を整えなければならない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状 況や課題について共通理解を持っているか。	○			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プ ログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる 研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	長期休みなどに、家族が参加できるイベン トを実施している。	家族が参加できる企画も、参加家庭が少な いので発信の方法を見直す必要がある。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明 を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者 の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ て、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		長期休みなどに、家族が参加できるイベントを実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		長期休みなどに、家族が参加できるイベントを実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○			マニュアルの更新、複数の観点からの訓練、家族が参加できる訓練の実施が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○			家庭と連携し、正しい対応を周知する必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○			家族との連携を図れる安全計画の制定が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		虐待防止研修と身体拘束防止の研修を年間に2回ずつ実施している。	職員体制が不安定で、浸透していかない為、職員体制を整える必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○					

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	伊東もえぎ		
○保護者評価実施期間	令和6年10月4日	～	令和6年10月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和6年10月4日	～	令和6年10月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの興味関心に寄与した活動内容	子どもの個別ニーズに応じたアクティビティを積極的に提供しています。特に、趣味や興味に沿った活動を通じて、楽しさを感じながらスキルを高めることを目指しています。	定期的に新しい活動プログラムを導入し、子どもたちが興味を持ち続けるようにします。また、活動内容について保護者の意見を取り入れ、家と連携したサポートを強化します。
2	LINE等を活用したスピーディな保護者対応	LINEやメールを活用した保護者との迅速なコミュニケーション体制を整え、些細な質問や不安に対しても即座に対応できるようにしています。	連絡手段の多様化を図り、他のアプリやSNSなどを活用して、より迅速かつ効率的なコミュニケーションを実現します。また、定期的に保護者参加型のイベントを開催する等、コミュニケーションの質の改善に努めます。
3	課題解決の取り組み	過去にはスタッフ間の対立やご家族からの苦情もいただきましたが、課題を解決するために様々な取り組みを行って参りました。これまでの改善に向けた取り組みは、サービスの質の向上につながっています。	定期的なサービスの見直しと、フィードバックに基づいた改善活動を行うことが大切です。保護者や子どもたちからのアンケートを実施し、実際の利用者の声を取り入れるとともに、業務プロセスの中でのミスや問題点を洗い出し、改善を図るサイクルを徹底します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の定着不足及び人員不足	新たに着た職員が定着せず、人員も不足している為、役割や責任範囲の不明確さから、スタッフ間の連携が不足し、業務の効率性が向上しない。	定期的なミーティングを実施し、課題や進捗を共有する場を設け、意見交換や問題解決のプロセスを明確にする。また、チームビルディングや研修を実施し、スタッフ間の連携を強化する。採用活動を強化する。
2	職員の育成体制の不足	新しく入ったスタッフに対する育成やサポートが不十分である。	オリエンテーションや教育プログラムを整備し、早期に業務に慣れてもらうためのサポート体制を強化する。また、メンター制度の導入も検討し、業務上の不安や疑問を解消する仕組みを作る。魅力ある職場づくりの為、風通しの良い職場環境を目指す。
3	保護者との連携不足。	保護者向けイベントやワークショップを企画しているものの、参加率が低く、保護者との交流や情報共有が進んでいない。	イベント内容や開催時間について保護者の意見を取り入れ、より参加しやすい環境を整える。また、オンラインイベントの導入や子どもたちと一緒に楽しめるアクティビティを増やすことで、参加率向上を図る。